

水稻新品種「モチミノリ」

誌名	農業技術
ISSN	03888479
著者	羽田, 丈夫
巻/号	45巻9号
掲載ページ	p. 415-415
発行年月	1990年9月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



研 究 通 報

水稻新品種「モチミノリ」

羽 田 丈 夫

登録番号：水稲農林301号 系統名：関東糯148号(平成2年命名) 交配組合せ：喜寿糯/関東125号

特性の概要

モチミノリは、出穂期・成熟期ともマンゲツモチよりやや遅い中生の晩に属する糯品種である。稈長はマンゲツモチよりやや短く、穂長は中位、穂数はやや多い偏穂重型に属する。止葉はやや直立し、出穂揃いが良く、草姿は良い。粒着密度は中で、脱粒性は難である。稀に短芒を生じ、ふ先色、ふ色は赤褐である。

玄米の粒形、粒大は中位で、光沢はマンゲツモチ並の中であるが、玄米白度はやや劣る。玄米の外観品質はマンゲツモチ並に良い。搗精歩留はマンゲツモチ並で、また、餅の食味もマンゲツモチ並に良い。切り餅およびせんべいの加工適性については、マンゲツモチと同等かやや良いと思われる。

耐倒伏性はマンゲツモチより強く、多収である。縞葉枯病に対しては抵抗性遺伝子をもつ。いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pi-k* と推定され、葉いもち、穂いもちともマンゲツモチ並の中である。白葉枯病にはマンゲツモチとほぼ同等の中位の抵抗性を有する。穂発芽性は喜寿糯並のやや難で、耐冷性は日本晴並のやや弱である。

適地および栽培上の注意

温暖地の中山間、平坦地帯に適する。奨励品種採用

モチミノリの特性

調査地	品 種 名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	倒伏	玄米重 (kg/a)	品 質 (1~9)
農 研 セ	モチミノリ	8.16	10.1	83	22.2	336	やや強	56.8	3.9
	マンゲツモチ	8.12	9.30	91	22.2	317	中	53.1	4.1
長野南信試	モチミノリ	8.19	10.15	82	21.7	429	強	70.0	3.7
	しなのはおたえ	8.13	10.3	92	20.1	365	やや弱	57.8	4.0

注) 農研セ：昭和61~平成元年平均、長野南信試：昭和62~平成元年平均。

は長野県でしなのはおたえ等を対照に、木曽郡を含む南信の標高600m以下および東北信の400m以下の地帯に約160haの普及が見込まれる。栽培上の注意事項は①葉いもち抵抗性は中位であり、常発地では適期防除に留意する。②白葉枯病抵抗性が必ずしも十分でないので、常発地での栽培には注意を要する。③糯品種としては倒伏に強いが、多肥栽培を避け、良質米生産に努める。

命名の由来：温暖地に適応する糯品種として、ミノリ(稔り)が良いことを表す。

育 成 後 記

現在、長野県における低暖地向けの糯品種はしなのはおたえであるが、長稈で倒伏に弱く、低収で、いもち病に弱い欠点を持っている。また、同地帯は晩生品種の栽培地帯であるため、雀害が多い。このため、強稈、多収、晩生の良質糯品種の普及が強く望まれている。

モチミノリはこれらの要望に応え、しなのはおたえより約10cm短稈で倒伏に強く、多収で、餅質も良いので、これらの地帯の良質糯の安定生産に貢献することを期待している。

また、モチミノリは喜寿糯と同じく、ふ色が赤褐で粳品種との識別が容易である。さらに、モチミノリはパキスタンの品種 Modan に由来する縞葉枯病抗性遺伝子をもつため、現在、縞葉枯病の発生している関東東海の各県で有望視されている。

育成従事者：中根 晃、
佐藤尚雄、羽田丈夫、伊勢一男、内山田博士、関沢邦雄、堀末 登、安東郁男、
中川宣興、赤間芳洋、古館

Takeo HATA: A New Paddy Rice Variety "Mochiminori" 農業技術 45 (9), 1990.

宏, 井邊時雄, 能登正司

(農業研究センター作物第一部稲育種研究室)